

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000580		
法人名	あんしんケアホーム和光株式会社		
事業所名	グループホームあんしんケアホーム和光 ライラック		
所在地	047-0002小樽市潮見台2丁目3番4号		
自己評価作成日	平成23年7月8日	評価結果市町村受理日	平成23年8月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1,広い居室(8.7帖)、広いリビング、くつろげるゆったりとした空間で潤いのある生活</p> <p>2、スプリンクラー、自動火災通報装置等の設備で入居者の安心、安全の確保</p> <p>3、充実した介護職員の確保で、きめこまかいケア及びサービスの提供</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000580&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000580&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成23年8月10日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小樽市郊外の小高い丘に建つ、2階建て3ユニットの瀟洒な事業所で、公園・病院・コンビニ等に近く利便性も良い。事業所内は、広くゆったりとした造りで、3ユニットのほかに、1階には多目的に使えるデイルームや大浴場があり、利用者の楽しみや、いこいの場となっている。また8.7畳間の居室には、洗面台も設置しており過ごしやす。防災面では万が一の災害に備え、避難訓練の実施や、スプリンクラー・自動火災通報装置・煙探知機・自家発電等の設備が充実しており、搬送用シート・防災ずきん・非常持ち出し袋等、防災備品にも工夫がうかがえる。災害時には近隣住民とすぐに連絡がつく「緊急支援連絡体制」を構築している。さらに利用者の安心安全を考慮し、夜間は職員配置を厚くしている。管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で利用者と共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。また、和紙工芸・絵手紙・体操教室等のボランティアの訪問も多く、事業所内でも楽しく過ごせるよう配慮している。近隣住民とは散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会行事へ参加し、事業所行事の和光祭や避難訓練に近所の人達が参加している。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や月初めの申し送りに理念のカード持って声を出して復唱している	地域密着型サービスの意義を理解し、事業所の理念とスローガンを随所に掲示している。利用者の安心・安全・尊厳を尊重し、理念に基づいたケアの実践に努め、理念カードは常に携帯し、ケアサービスに反映されているか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	老人会、和光祭の参加や和光だよりの発行により、より多くの交流を深めている	町内会に加入している。日帰り温泉・カラオケ大会・誕生会等の地域行事に参加している。事業所主催の和光祭や避難訓練には、地域の人達が参加し、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和光だよりの発行、和光祭の開催、町内会の老人会等への参加により認知症の理解を深めていただくよう努めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	サービス評価の現状等を報告し情報交換をしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。会議には、家族代表・町内会役員・地域住民・地域包括支援センター職員等が参加し、事業所の活動や行事報告、防災計画等を話し合い、ケアの充実や運営に効果を上げている。	運営推進会議の内容を広く知らせる意味でも、議事録は全家族に送付又は掲示すること等を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所からの報告、相談でサービスの取組みを連絡を取り合っている	行政担当者とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や職員間で身体拘束の説明がありそういう行為がないよう徹底している	日中は玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。利用者の外出傾向は抑制せず、気配り・目配りで「見守り支援」に取り組んでいる。身体拘束や虐待に関するマニュアルは完備し、個々が自由な生活をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や職員間で虐待の説明があり、見過ごすことがないように徹底している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議等学ぶ機会を持ち理解を深め支援するよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項、契約事項を説明し納得同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内容、外部の苦情相談など重要事項に記入している。家族訪問時職員は気楽に話せる雰囲気づくりに配慮している	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力している。重要事項説明書には、事業所内苦情受付窓口と外部相談窓口を明記している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、代表者との個人面談で経験、提案などを聞く機会を設けている	全職員参加の全体会議を定期的に行っており、代表者との個人面談も実施している。さらに充実したケアサービスを提供するために、ユニット会議や毎日のミーティングを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況を把握、職場環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修や講習などの支援をしている、レポートを作成、全体会議において全員に共有を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に行い他社とのグループホーム訪問相互交流を行いサービス向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の施設見学や話し合いを行ったり又本人が来られない状態の場合は、お宅や病院へ訪問するなどの工夫をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の施設見学や話し合いを行い安心して入居頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で要望を伺ったり病院からの情報も参考にし必要な支援を行なっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の興味や関心のあることを把握し、共に生活しているという関係を大切にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事等の時には、ご家族に声を掛け共に過す時間を持てるよう支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への手紙や電話の取次ぎ又面会できるよう支援している	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できるように支援している。家族を含め親族や知人の来訪もあり、継続的な交流ができるように支援している。ボランティアで訪問する人達とも、馴染みの関係を構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し「席」の位置などを工夫している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了するケースが多いが、場合でも家族の相談等があれば対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情、態度からそれとなく把握するよう努めている、また困難な利用者においてはご家族からの意向を伺う	日常の様子や会話・表情・行動等から個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、何をしたいか、どのように暮らしたいか、誰に会いたいかの視点に立ち、本人本位の生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話やご家族の訪問時に少しでも把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録には本人の言葉をそのまま記録するよう努めそれを参考にその人らしい1日の過ごし方の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居当初は職員が利用者につき添いより個別対応に重点を置きながら利用者の生活のリズムや能力、意向の把握に努めている	定期的な見直しは本人や家族の要望を取り入れ、3ヶ月毎に行い、身体状況に変化のあった場合は、随時見直しを行っている。かかりつけ医や協力病院医師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に本人の様子や気づき等を記入し職員間、情報を共有している、またその記録を元に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望には可能な限り答えている、ホームでの散髪など		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校、ボランティアの方がホームにて色々な催しを行なって頂き入居者一人一人楽しむことができている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他希望により入居前のかかりつけ医に受診出来る様支援している受診時は職員が同行し医師とは情報の共有や連携を図り家族への伝達及び介護に役立てている	利用者は希望のかかりつけ医を受診し、職員が同行し家族に情報を伝えている。協力病院医師による往診は2週間に1度、通院は随時行っている。また、病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。事業所には看護師が2名勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長も含めて2名の看護師を確保しているため夜昼問わず、入居者様の状態に異変があった際は看護師の指示のもと対応している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は施設関係者が病院、家族と情報を交換し話し合っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は早期に家族の方や病院と連絡を取り合い方針を共有して取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方については、個々の利用者について、関係者全員で今後の方針について早い時期から話し合いを進め、不安感をもたないように対応している。終末期の看取り経験がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで講義を受けているほか緊急対応マニュアルを参考にしている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署主催の避難訓練を行い運営推進会議を通して地域との連携について取り組んでいるまた防災マニュアルを参考にしている	利用者・職員・地域住民参加で、年2回の消防署の協力の元、避難訓練を実施しており、地域住民の緊急支援連絡体制ができている。搬送用シート・防災頭巾・食料品等も、準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握し本人の羞恥心や自尊心に配慮した対応を心掛けている	利用者のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つけないことがないよう、周囲に配慮しながら支援している。個人情報に関する書類は、事務室で適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話で本人の意見を聞き自己決定できるような声掛けと支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの要望があった際は可能な限りの支援を心掛けている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関してはほとんどの方が自分の好みのものを着用し訪問の理美容サービスを受けている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせて盛り付けや形態を工夫している、利用者と職員と一緒に会話しながら食事し配膳下膳をしている	利用者の好みを取り入れた献立を作成し、個々の嚥下状況に応じた調理を行い、見た目も美しく盛り付け、食欲が刺激されるように工夫している。味付けや後片付けなどは、利用者と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取を把握し利用者の好みや状態に合わせて味、温度のものを提供し、1日を通じて確保できる様にしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じてうがい、歯みがきの声掛けや介助を行なっている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し利用者の様子、状態を観察しながら声かけ、トイレの誘導	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。事業所内には13ヶ所のトイレがあり、使いやすく整備している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取っていただいたり適度な運動を心掛けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回(月曜・木曜)は大浴場で入浴しているが利用者の体調・希望でユニットの個浴でも対応している	基本的には週2回、大浴場で入浴しているが、本人の希望する曜日や時間に入浴できるように、ユニットの個浴で対応している。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり、声かけ等の方法を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状態に合わせて個々の居室で自由にゆっくり休めるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明や服薬表で薬の目的・副作用・用法・用量を理解している、服薬時は複数で確認し症状の変化等は医師・看護師に報告している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じ野菜の下準備、洗濯物たたみ等の役割や、カラオケ、散歩で気分転換できるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考えて屋外への散歩や車利用の外出を実施している	季節や天候によって、庭での外気浴や近くの公園まで散歩、町内会行事参加、また3ユニット合同で遠出し、普段行けないところにも出かけている。坂道の多い土地柄、冬場の外出は困難が多く、ボランティアの訪問や体操教室で楽しんでいる。また、広い事業所内を利用して、歩行訓練を行っている。	外出・外食や事業所内行事は、家族や事業所を訪問する誰もが分かるように、掲示や伝達を工夫することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は職員が預り金として管理している希望者には所持させ買い物等に同行することもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば手紙の投函や電話の取次ぎをしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた飾りつけやビデオ鑑賞好みの音楽をかけて居心地良く過ごされるよう配慮している	玄関・居間・食堂・キッチン・居室・浴室・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り快適な居住空間となっている。事業所1階にはダイニングや大浴場があり、利用者の楽しみの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのソファ、テーブル、ベンチの席は配置を考え自由に利用されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理タンスなどは本人の使い慣れた物を利用しやすい配置に工夫している	居室の家具は利用者が使い慣れたものを持ち込み、家族と協力して配置するなど、個性や生活歴を活かしたものとなっている。家族写真や手芸作品などを飾り、心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床のバリアフリーや手すりの配置で施設内の移動やトイレの使用は安全に行なわれている		